

田植えが終わりました！



まだ苗が小さいので見えにくいのですが、ちゃんと植わってます。今年はなんと私が不在の間に田植え。ピンチヒッターとして、4月からうちのトレーラーハウスに住み着いている友人が手伝ってくれました。最も大変なときに私が家を空けて何をしていたか、というのは後まわしにして、まずは田植えに至る約1ヶ月のご報告をダイジェスト版で。

種と苗床を準備し、種を蒔いて、苗を育てました。写真左から、苗箱の準備、種まき、水やり。

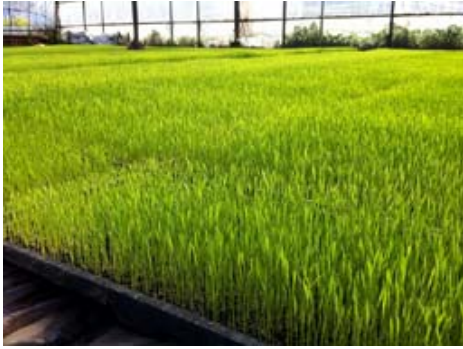


田んぼの畦を塗り、肥料をまいて耕し（左）、水を引き入れて（中）、代掻きをしました（右）。



大型連休真っ最中の早朝に「苗をビニールハウスから出すぞ！」と耕太。真夏のような陽気が続いたので、苗はぐんぐん成長。背ばかり伸びるといい苗になりません。苗箱を運ぶには散水前じゃないと重くなる。でも

ハウス内で乾いた苗には早く水をあげないと枯れてしまう…。まだ寝ている三男坊をお兄ちゃんたちに任せ、私と耕太でせっせと苗箱をビニールハウスから運び出します。ただ事ではない様子に、朝ごはんをすませた子供たちや友人も手伝いに来てくれました。みんなで協力してせっせと苗運び。水を張った田んぼに苗箱を入れたら一安心です。お次は息も絶え絶えでハウスに残っている苗たちに水やり。危ないところでした。



ところで突然ですが、今この通信はドイツで書いています。地元の熊本日日新聞社の取材に同行中なのです。内容は「草原を守っている農家に対する様々な支援」。農業を続けることで草原や田んぼのある阿蘇の景観を守っていききたい、と思いつけている私たちにとって、これ以上のテーマはありません。でも1年で最も忙しい田植えの時期。お断りしようかとずいぶん悩みましたが、「行って来て！」と耕太。後ろ髪を引かれる思いで日本を発ちました。それでも取材は勉強になる事ばかりで、無理をしてでも来て良かったなあと思っています。少しご紹介しますね。



南ドイツのバーデン・ビュルテンブルグ州では、20年近く前から景観を維持するための作業をする農家を支援しています。助成をもらえることによって、「自分たちが景観を守っているんだ」という意識が農家の中に生まれてきたのだそう。ふむふむ。そこで、実際にそういう自負を持っている農家さんたちを訪ねました。傾斜の厳しい草原で、山に強い伝統的な種の牛を飼っている農家さん。農家が景観を守っている

ということを他の人にも分かってもらう努力をされていて、共感することばかりでした。上の写真は南阿蘇ではなく南ドイツ黒い森地方。よく似ていますよね？

その他、伝統的な果樹園のある景観を守る取り組みや、絶滅しかけていた地元の豚を復活させて地産地消に取り組んでいる生産者組合など、7日間みっちり取材してきました。スタート時期は未定ですが、これから6月にかけて熊本日日新聞にて連載される予定です。1日遅れくらいでインターネットでも見れるようですので、ぜひ見てくださいね。

(<http://kumanichi.com/feature/sougen/>)取材の報告は、我が家のブログでもしていますのでそちらも是非。

帰国したらさっそく「め植え」と呼ばれる補植作業と雑草との闘いが待っています。ずいぶん役に立つようになってきた双子が学校でいないので、讃太郎と二人で頑張ります。皆様お元気で！

